

プレスリリース

2018年11月2日

国境なき医師団 (MSF)

コンゴ：性暴力被害 2600 人超に——15 歳未満の被害 162 人

国境なき医師団 (MSF) は、コンゴ民主共和国 (以下、コンゴ) 中央カサイ州の州都カナンガ市において 2017 年 5 月～2018 年 9 月に治療した性暴力被害者が 2600 人に上ったと発表した。15 歳未満の被害者 162 人が含まれ、22 人は 5 歳未満だった。患者の多くが被害後 1 ヶ月以上経ってから受診しており、実際の被害者数はさらに多いとみている。

カサイ地方では、2016 年 8 月から広い範囲で武力衝突が発生。多くの人びとが命を奪われ、家を失った。MSF は、2017 年 5 月からカサイ地方での緊急援助を開始し、性暴力被害者や、栄養失調の子ども、外傷患者らに医療援助をしてきた。同年 9 月からは、現地のニーズを受けて、性暴力被害者の治療に重点を置いてきた。地域住民に対して MSF の取り組みを呼びかけることで、来院する性暴力被害者が増え、現在では月平均約 200 人を治療している。

8 割が武装した男たちによるレイプ

MSF が 2017 年 5 月以降に治療した 2600 人のうち、8 割が武装した男たちによるレイプ被害を訴えた。被害者には男性 32 人も含まれていた。中には、武器を突き付けられ他の人をレイプするよう強要された人もいた。

コンゴの MSF 活動責任者カレル・ヤンセンスは、「こうした数字は、ここ 1 年余りの深刻な暴力の現状を示しています。毎日のように、性暴力被害者から衝撃的な証言を耳にします。いかに被害者が社会と切り離され、生活も元の状態に再建できないまま、前に進めなくなっているかを物語っています」と話す。

MSF はグループ・セッションのほか、心の傷の深い患者には個別に心理ケアを提供している。2018 年 3～9 月で、患者 835 人が個別カウンセリングを受けた。うち半数は、家族を殺害されたか、自宅などを略奪または破壊された、またはその両方を経験していた。さらに 10 人に 1 人は、殺人または暴力行為を目撃していた。

迅速な治療が不可欠

一方、MSF で治療を受けた被害者の 4 人に 3 人が、被害後 1 ヶ月以上経ってから受診していた。多くが「無償で治療を受けられることを知らなかった」「施設までの交通費が出せなかった」などの理由を挙げた。だが、性暴力を受けた場合には、72 時間以内に治療を受ける必要があるとされている。HIV (ヒト

免疫不全ウイルス)などの性感染症を効果的に予防するためには、迅速な治療が欠かせない。

MSF プロジェクト・コーディネーターを務めるフランシスカ・バプティスタ・ディ・シルヴァは「被害者が子どもであろうと成人であろうと、適切な公共サービスが限られている現状では、被害者の保護と社会経済的な援助が引き続き重要だ」と訴えている。

MSFは1977年からコンゴで活動を続けてきた。紛争や暴力の被害者、住まいを追われた人びと、コレラやはしか、HIV／エイズなどに感染した人びとに医療を提供している。MSFは過去数十年にわたり、コンゴにおけるエボラ出血熱対応でも最前線に立ってきた。2017年だけで、コンゴ国内17カ所での性暴力被害者の診療件数は6300件を超えた。


以上

本件に関するお問い合わせ先：

特定非営利活動法人 国境なき医師団日本 広報担当：那須 眞澄

TEL：03-5286-6156 FAX：03-5286-6124

E-mail: press@tokyo.msf.org <http://www.msf.or.jp>

 メディア向けツイッターアカウント：@MSFJ_Press